



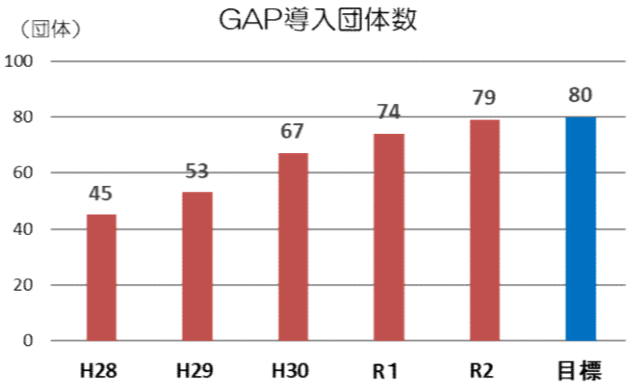
# みやぎ食と農の県民条例基本計画の推進に向けた 令和2年度事業の実施状況及び令和3年度の主な取組(概要版)

農林水産委員会配布資料  
令和3年8月20日  
農政部



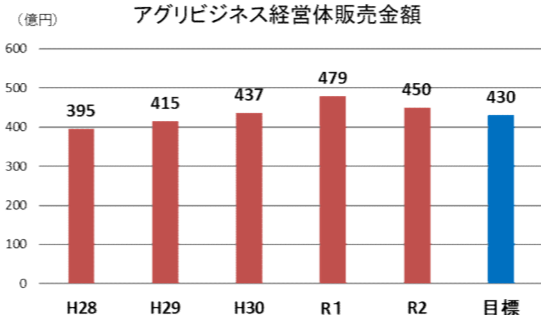
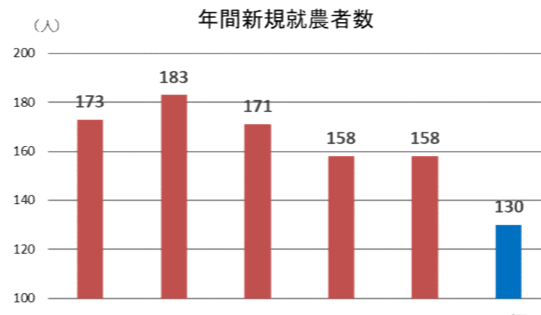



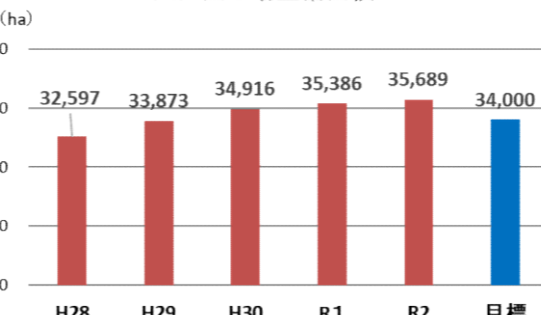
資料1

基本計画の概要	令和2年度の取組による成果の総括																																																																														
<p>根拠法令： みやぎ食と農の県民条例 計画期間： (1期)平成12年度～平成22年度 <b>(2期)平成23年度～令和2年度</b> (3期)令和3年度～令和12年度</p> <p>備考： 第2期計画は平成28年3月に中間見直しを実施 報告事項： みやぎ食と農の県民条例第9条の規定により、事業の実施状況及び予定、及び、5年ごとの目標達成状況を報告するもの。</p> <p>第2期計画における食・農業・農村の将来像 農業を若者があこがれる魅力ある産業に！ 第2期計画における農業・農村の見通し及び目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農業産出額の目標</li> </ul> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>現況(H26)</th> <th>目標(R2)</th> </tr> <tr> <td>農業産出額</td> <td>1,629 億円</td> <td>2,015 億円</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農業の担い手に係る見通し</li> </ul> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>現況(H27)</th> <th>見通し(R2)</th> </tr> <tr> <td>販売農家</td> <td>37,522 戸</td> <td>31,500 戸</td> </tr> <tr> <td>  主業農家</td> <td>6,967 戸</td> <td>6,000 戸</td> </tr> <tr> <td>  準主業農家</td> <td>10,203 戸</td> <td>8,500 戸</td> </tr> <tr> <td>  副業的農家</td> <td>20,352 戸</td> <td>17,000 戸</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農地の面積の見通し</li> </ul> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>現況(H27)</th> <th>見通し(R2)</th> </tr> <tr> <td>農地面積</td> <td>129,400 ha</td> <td>128,600 ha</td> </tr> </table>	項目	現況(H26)	目標(R2)	農業産出額	1,629 億円	2,015 億円	項目	現況(H27)	見通し(R2)	販売農家	37,522 戸	31,500 戸	主業農家	6,967 戸	6,000 戸	準主業農家	10,203 戸	8,500 戸	副業的農家	20,352 戸	17,000 戸	項目	現況(H27)	見通し(R2)	農地面積	129,400 ha	128,600 ha	<p>◎ 令和2年度は、第2期基本計画の最終年度となり、各目標指標の達成に向けて施策を展開しつつ、新型コロナウイルス感染症により影響を受けた生産者や食品事業者等に対し、需要喚起対策や、販路開拓に係る支援等にも取り組んだ。</p> <p>[農業・農村の見通し及び目標に対する実績]</p> <p>◎ 令和元年の農業産出額は1,932億円となり、前年の1,939億円と比べてほぼ同額となった。主な要因として、米については839億円となり、生産量の増加と価格がやや上昇したことによるもので、前年の818億円から21億円の増となっている。園芸については323億円となり、きゅうりやトマト等の価格低下に伴うもので、前年の333億円から10億円の減となっている。畜産については736億円となり、生乳や鶏卵の生産量の減少や、プロイラーの価格低下によるもので、前年の758億円から22億円の減となっている。</p> <p>◎ 農業の担い手について、令和2年度の農業法人数は、経営改善やコロナへの対応を支援した結果、前年度から約5%増加の732法人となった。令和元年度の新規就農者数は、就農相談会や、コロナ禍で需要が増加したオンラインによる相談対応等を実施し、前年度と同じ158人となった。</p> <p>◎ 農地面積について、令和2年度は、大区画ほ場整備を約292haで実施したほか、農業者等の共同活動による農地・農業用施設などの保全活動を支援し、75,144haの農地が維持・保全された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 令和2年度の取組による目標の達成状況としては、推進指標全42項目のうち、34項目が80%以上の達成率となり、達成度AまたはBとなっている。また、そのうち13項目については、達成度Aであり、目標を達成した。</li> <li>● 一方で、基本項目Ⅲについては達成率が低く、5年ごとの目標達成状況としては、やや遅れているという評価となった。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th rowspan="2">指標数</th> <th colspan="2">評価</th> </tr> <tr> <th>達成度</th> <th>構成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">基本項目Ⅰ</td> <td rowspan="3">消費者が求める安全・安心な食料の安定供給</td> <td>A</td> <td>1 25%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>2 50%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>1 25%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基本項目Ⅱ</td> <td rowspan="3">マーケットインによる競争力と個性のある農業の持続的な発展</td> <td>A</td> <td>11 38%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>13 45%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>5 17%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基本項目Ⅲ</td> <td rowspan="3">農業・農村の多面的な機能の発揮</td> <td>A</td> <td>0 0%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>4 67%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>2 33%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基本項目Ⅳ</td> <td rowspan="3">農村の経済的な発展と生活環境の整備</td> <td>A</td> <td>1 33%</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>2 67%</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>0 0%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>42</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">目標達成率80%以上(A+B)</td> <td>34</td> <td>81%</td> </tr> <tr> <td colspan="2">目標達成(A)</td> <td>13</td> <td>31%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和2年度は、第2期基本計画の最終年度のため、推進指標の全体に係る評価は、「みやぎ食と農の県民条例基本計画の5年ごとの目標達成状況」を参照。</p> <p>達成度 A 達成率100%以上 B 達成率100%未満～80%以上 C 達成率80%未満</p>	評価項目	指標数	評価		達成度	構成率	基本項目Ⅰ	消費者が求める安全・安心な食料の安定供給	A	1 25%	B	2 50%	C	1 25%	基本項目Ⅱ	マーケットインによる競争力と個性のある農業の持続的な発展	A	11 38%	B	13 45%	C	5 17%	基本項目Ⅲ	農業・農村の多面的な機能の発揮	A	0 0%	B	4 67%	C	2 33%	基本項目Ⅳ	農村の経済的な発展と生活環境の整備	A	1 33%	B	2 67%	C	0 0%	合計		42	100%	目標達成率80%以上(A+B)		34	81%	目標達成(A)		13	31%
項目	現況(H26)	目標(R2)																																																																													
農業産出額	1,629 億円	2,015 億円																																																																													
項目	現況(H27)	見通し(R2)																																																																													
販売農家	37,522 戸	31,500 戸																																																																													
主業農家	6,967 戸	6,000 戸																																																																													
準主業農家	10,203 戸	8,500 戸																																																																													
副業的農家	20,352 戸	17,000 戸																																																																													
項目	現況(H27)	見通し(R2)																																																																													
農地面積	129,400 ha	128,600 ha																																																																													
評価項目	指標数	評価																																																																													
		達成度	構成率																																																																												
基本項目Ⅰ	消費者が求める安全・安心な食料の安定供給	A	1 25%																																																																												
		B	2 50%																																																																												
		C	1 25%																																																																												
基本項目Ⅱ	マーケットインによる競争力と個性のある農業の持続的な発展	A	11 38%																																																																												
		B	13 45%																																																																												
		C	5 17%																																																																												
基本項目Ⅲ	農業・農村の多面的な機能の発揮	A	0 0%																																																																												
		B	4 67%																																																																												
		C	2 33%																																																																												
基本項目Ⅳ	農村の経済的な発展と生活環境の整備	A	1 33%																																																																												
		B	2 67%																																																																												
		C	0 0%																																																																												
合計		42	100%																																																																												
目標達成率80%以上(A+B)		34	81%																																																																												
目標達成(A)		13	31%																																																																												

## 基本項目Ⅰ 消費者が求める安全・安心な食料の安定供給

令和2年度の主な施策の実施状況	主な推進指標の達成状況等	令和3年度の主な取組														
<p>12 消費者と農業者の安全確保の相互理解の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 農業生産工程管理(GAP)の実践普及拡大に向け、生産者及びJA等を対象とした研修会等を開催し啓発を図った。また、農業教育機関の認証取得を支援した。[施策1]</li> <li>● 豚熱の感染を未然に防ぐため、県内農場の飼養豚にワクチン接種を行った。また、令和3年1月に高病原性鳥インフルエンザの疑似患者と判定されたアヒル農場の飼養家さんについて、処分埋却等の防疫措置を行った。[施策1]</li> <li>● 「食育」の普及啓発に向け、高校生地産地消お弁当コンテストの開催や、地域に伝わる食文化や特産物を伝える講習会・体験学習の開催など、「食育」に係る取組を支援した。[施策2]</li> <li>● 新型コロナウイルス感染症対策として、県内飲食店等でのキャンペーンにより県産食材の需要を喚起し、生産者の経営安定を図った。[施策2]</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>高病原性鳥インフルエンザ発生農場における防疫措置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>高校生地産地消お弁当コンテスト</p> </div> </div>	<p>◎ GAP導入団体数は研修会の開催等の支援により、順調に増加し概ね目標を達成した。引き続き、国際水準GAPの導入やGAP認証の取得に向けた取組の支援を行う。</p> <div style="text-align: center;"> <p>GAP導入団体数</p>  <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>団体数</th> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>R1</td> <td>74</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>80</td> </tr> </table> </div>	年度	団体数	H28	45	H29	53	H30	67	R1	74	R2	79	目標	80	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 研修会の開催などにより国際水準GAPの導入推進や人材育成を図るとともに農業教育機関の認証取得を支援し、後継者世代の理解浸透を図る。【GAP認証取得推進事業】</li> <li>● 家畜伝染病の発生予防とまん延防止、安全な畜産物の安定供給を図るため、各種家畜の伝染性疾病対策を継続的に実施する。【家畜伝染病予防事業】</li> <li>● 養豚場での豚熱の発生予防を目的に、豚熱ワクチン接種と免疫付与状況確認検査を実施する。【豚熱等発生予防対策事業】</li> <li>● 県内で生産される農産物に対する理解向上や消費・活用の促進を図るため、地産地消の啓発や地産地消推進店の拡大を全県的に推進する。【食育・地産地消推進事業】</li> </ul>
年度	団体数															
H28	45															
H29	53															
H30	67															
R1	74															
R2	79															
目標	80															

# 基本項目Ⅱ マーケットインによる競争力と個性のある農業の持続的な発展

令和2年度の主な施策の実施状況		主な推進指標の達成状況等		令和3年度の主な取組																											
<p>34 競争力ある担い手の確保・育成</p>	<p>● アグリビジネスに取り組む経営体に対し、経営改善や経営の多角化等、経営を発展させる取組や新型コロナウイルス感染症対策への支援を行った。[施策3]</p> <p>● 新規就農者の確保・育成については、農業大学校における研修教育に加え、幅広く優秀な人材を集めるため、就農相談会や、コロナ禍で需要が増加したオンラインによる対応等、各個人のニーズに適応した就農相談を実施し、160件の相談に応じた。[施策4]</p> <p>● 意欲ある女性農業者を対象として、農業経営に関する知識・技術の習得、家族経営協定の締結推進、経営参画・社会参画のための学習会等を開催し、女性農業者の経営者としての資質向上を支援した。[施策4]</p>  <p>組織力向上オーダーメイド講座</p>  <p>就農相談会（仙台市）</p>	<p>◎ アグリビジネス経営体販売金額は、新型コロナウイルス感染症の影響により前年度よりは減少したものの、目標を達成した。</p>  <p>アグリビジネス経営体販売金額 (億円)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><th>目標</th></tr> <tr><th>金額</th><td>395</td><td>415</td><td>437</td><td>479</td><td>450</td><td>430</td></tr> </table> <p>◎ 年間の新規就農者数は、就農相談会の実施やイベントへの出展、動画によるPR等により、目標を達成した。</p>  <p>年間新規就農者数 (人)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H27</td><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><th>目標</th></tr> <tr><th>人数</th><td>173</td><td>183</td><td>171</td><td>158</td><td>158</td><td>130</td></tr> </table> <p><small>※R2の統計値はR3.9月頃確定</small></p>	年度	H28	H29	H30	R1	R2	目標	金額	395	415	437	479	450	430	年度	H27	H28	H29	H30	R1	目標	人数	173	183	171	158	158	130	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (公財)みやぎ産業振興機構と連携し、地域農業を支えるアグリビジネス経営体の確保・育成を支援するとともに、付加価値の創出や園芸産出額の増大を図る法人等に対し施設整備等を支援する。【アグリビジネス経営体確保育成事業】</li> <li>● 新規就農者の確保育成、農業大学校の運営を支援する。【新たな農業担い手育成プロジェクト】</li> <li>● 女性農業者が働きやすい就業環境整備を支援するとともに、セミナー開催等資質向上への支援を行う。【みやぎのキラリ輝く女性応援事業】</li> <li>● 農業経営の課題に対応するため、農業経営相談所の活動を支援するとともに、相談所の支援を受けた集落営農組織等の法人化への取組への支援を行う。【農業経営者総合サポート事業】</li> <li>● 集落営農組織からモデル経営体を選定し、農業改良普及センター、革新支援専門員が専門家と連携し、将来ビジョンの作成支援等を行う。【地域を守る、集落営農モデル支援事業】</li> </ul>
年度	H28	H29	H30	R1	R2	目標																									
金額	395	415	437	479	450	430																									
年度	H27	H28	H29	H30	R1	目標																									
人数	173	183	171	158	158	130																									
<p>567 優良な生産力の確保と多様な作物生産の振興</p>	<p>● 低コスト化に対応した農地の大区画化や麦・大豆・飼料作物の生産等のための水田の汎用化を69地区で実施した。また、計画的な農地・施設等の整備に向けて、事業化のための調査及び事業計画の策定を20地区で進めた。[施策5]</p> <p>● 国が示した米政策改革の着実な推進に向け、令和2年産米の「生産の目安」を達成するために、各地域農業再生協議会と連携し、需要に応じた生産に取り組むとともに、令和3年産「生産の目安」を設定し、各地域へ提示した。[施策6]</p> <p>● 新型コロナウイルス感染症拡大によるイベントの縮小・廃止等の影響により需要が減退した県産花きの生産支援のため、花き関連団体が実施した花き公共展示や、次期作に向けた生産効率向上対策の取組を支援した。[施策7]</p> <p>● 各種補助事業の効果的な活用による先進的な施設等の整備を進めるとともに、次世代施設園芸拠点による技術成果の横展開、民間コンサルを活用した高度環境制御技術の定着や人材育成等により、先進的な技術を導入した園芸経営に取り組む農業法人が増加した。[施策7]</p>  <p>大区画に基盤整備された農地（涌谷町）</p>  <p>加工・業務用ばれいしょの機械収穫</p>  <p>全国トップレベルの収量性を 実現した大型園芸施設 （石巻市）</p>	<p>◎ 大区画ほ場（50a以上）整備面積は、順調に増加しており、計画的な農地整備の推進に努めたことにより、目標を達成した。</p>  <p>大区画ほ場整備面積 (ha)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><th>目標</th></tr> <tr><th>面積</th><td>32,597</td><td>33,873</td><td>34,916</td><td>35,386</td><td>35,689</td><td>34,000</td></tr> </table> <p>◎ 先進的園芸経営体数は、施設整備や人材育成に対する支援を行った結果、増加傾向にはあったものの、令和2年度は前年度と比べ微増となり、目標には至らなかった。</p>  <p>先進的園芸経営体数 (経営体)</p> <table border="1"> <tr><th>年度</th><td>H28</td><td>H29</td><td>H30</td><td>R1</td><td>R2</td><th>目標</th></tr> <tr><th>体数</th><td>38</td><td>43</td><td>46</td><td>51</td><td>52</td><td>70</td></tr> </table> <p><small>※R2の統計値は見込み</small></p>	年度	H28	H29	H30	R1	R2	目標	面積	32,597	33,873	34,916	35,386	35,689	34,000	年度	H28	H29	H30	R1	R2	目標	体数	38	43	46	51	52	70	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 担い手への農地集積・集約化を図りつつ、生産効率を高め、高収益作物の導入・拡大等を図る農地の大区画化・汎用化を推進する。【農地整備事業】</li> <li>● 農地中間管理事業の重点実施地区において、担い手への農地集積の推進や高収益作物への転換を図るための計画策定、基盤整備等を実施する。【農地耕作条件改善事業】</li> <li>● 需要に応じた主食用米の計画的な生産と、水田をフルに活用した麦、大豆及び飼料用米等の作付転換を推進する。【経営所得安定対策等推進事業】</li> <li>● 「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」に掲げる園芸産出額等の目標を達成するため、先進的大規模園芸の推進等を図る。【みやぎ大規模園芸総合推進事業】</li> <li>● 園芸産出額増加に向け、農業法人に対する施設・機械等の整備に要する経費を補助するとともに、農業経営体等の早期の先進的技術習得を支援する。【みやぎの園芸法人ステージアップ事業】</li> <li>● 水田地帯において、園芸作物の導入を図るため、新たにまとまった規模の園芸産地を育成する必要な取組を一体的に支援する。【水田農業高収益作物導入推進事業】</li> <li>● 法人等が収穫・調整・出荷等の機械・施設を整備しながら、サプライチェーンを構築する取組への支援を行う。【園芸作物サプライチェーン推進事業】</li> </ul>
年度	H28	H29	H30	R1	R2	目標																									
面積	32,597	33,873	34,916	35,386	35,689	34,000																									
年度	H28	H29	H30	R1	R2	目標																									
体数	38	43	46	51	52	70																									

令和2年度の主な施策の実施状況		主な推進指標の達成状況等	令和3年度の主な取組
89 畜産の生産王国みやぎによる販売戦略の展開と食産業の振興 10 生産力と品質を高める農業技術の高度化	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 肉用牛の生産基盤強化対策として、優良雌子牛の導入・保留の推進や受精卵移植技術を活用した牛群整備をはじめ、県有基幹種雄牛「茂福久（しげふくひさ）」号等を活用した質・量ともに優れた生産性の高い肉用牛づくりを推進し、「仙台牛」のブランド力向上に努めた。【施策8】</li> <li>● 新型コロナウイルス感染症によって、業務用の需要が大幅に減少した県産牛肉の消費拡大のため、県内の小中学校等へ学校給食の食材として無償提供した。また、肥育農家及び繁殖農家の経営安定を図るため、県内肥育農家における県内産素牛の導入を支援した。【施策8】</li> <li>● 新型コロナウイルス感染症の影響で「宮城ふるさとプラザ」が一時休業や営業時間短縮となったほか、百貨店や企業などでの物産展・販売イベントの多くが中止になるなど県産品販売に大きな影響が生じたことから、大手インターネットモールを活用したウェブ物産展を開催するなどして、販路の回復・拡大に努めた。【施策9】</li> <li>● 地域イメージの確立に向け、知事等による県産食材のトップセールスや、民間企業との連携による「食材王国みやぎ」のPR、インターネット食関連情報サイト「食材王国みやぎ」などを通じた情報発信などを行った。【施策9】</li> <li>● 大豆品種「ミヤギシロメ」の摘芯処理による生育制御法の開発や「水田を活用した露地園芸栽培の手引き」の作成、新しい基幹種雄牛「好久勝（よしひさかつ）」の育成などに取り組み、水田農業、園芸、畜産分野において12の普及技術を開発した。【施策10】</li> <li>● スマート農業の推進に向けて設立した「みやぎスマート農業推進ネットワーク」の会員に対してセミナーや展示会等の案内やスマート農業通信等の情報提供を行った。【施策10】</li> </ul>	<p>◎ 大規模肉用牛農家戸数については、優良雌牛の導入や保留推進、飼養管理施設整備などの取組によって増加傾向にあるが、目標には至らなかった。</p> <p>◎ 製造品出荷額（食料品製造業）は、事業者の生産能力の回復と積極的な販路開拓活動により、目標を達成した。</p> <p>◎ 普及に移す技術開発件数は、震災からの復旧・復興に向けて、産学官が連携して取り組んできた結果、目標を達成した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 産地間競争の激化、担い手の高齢化及び後継者不足による肉用牛農家の減少等に対応するため、「肉用牛改良対策」と「経営安定対策」を連携した事業を実施し肉用牛生産の活性化と増頭を図る。【みやぎの優良肉用牛生産振興対策事業】</li> <li>● 第11回全国和牛能力共進会で取り組んだ経験と成果を次回大会へ余すことなく引き継ぐため、技術継承と出品条件に合致した対策を中心に事業を推進する。【第12回鹿児島全共出品対策事業】</li> <li>● 急速に進んでいる消費のデジタルシフトに対応するため、デジタルデータの収集・分析を通じて、県産品へ関心を持つ顧客層の把握と効果的な誘客を図る新たな販売支援の仕組み「県産品販売促進モデル」を構築する。【デジタルマーケティングを核とした県産品販売促進モデル構築事業】</li> <li>● 県産農林水産物等の広報PRを行い、信頼回復と消費拡大を図る。【「食材王国みやぎ」魅力発信プロジェクト事業】</li> <li>● 地域食材を活用した商品開発経費の補助や商談会の開催等により、仕入・流通・販売の各段階における付加価値を高め、食のバリューチェーンを構築する。【みやぎの食材バリューチェーン構築プロジェクト】</li> <li>● 県産食材の実需者とのマッチングや食材王国みやぎフェアの開催などの支援により、県産食材の付加価値と認知度の向上を図る。【食材王国みやぎの「食」ブランド化推進プログラム事業】</li> <li>● 本県の農産物の生産における大きなリスク要因となっている地球温暖化及び気候変動について、作物ごとに気候変動に適応した栽培技術を開発するとともに、実用化及び普及を推進する。【気候変動に適応した持続可能な農業技術の確立と社会実装事業】</li> <li>● スマート農業技術等の普及拡大を図るとともに、スマート農業技術の支援体制を強化し、生産性向上、経営改善支援を行う。血統と遺伝子情報を活用したゲノミック評価の利用により、仙台牛等のおいしさ成分を含めた評価を行い、改良の加速化を進めると共に生産性の向上を図る。【アグリテック活用推進事業】</li> </ul>
	<p>検定成績で肉量を示す値が県歴代1位となった「好久勝（よしひさかつ）」号</p> <p>WEB物産展</p> <p>大豆の摘芯作業</p> <p>ドローンの2台協調作業</p>		

